

文部科学省「平成 26 年度大学における医療人養成推進等委託事業」

看護系大学院における教育の基準策定と評価に関する調査研究

－第 1 回・「博士後期課程で修得すべき能力」調査結果－

一般社団法人 日本看護系大学協議会

高等教育行政対策委員会

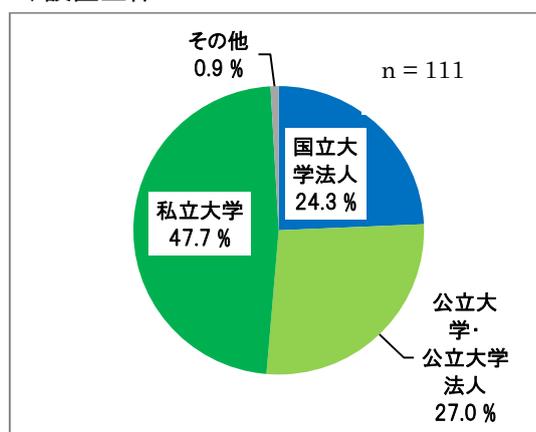
「看護系大学院における教育の基準策定と評価に関する調査研究」プロジェクト

看護系大学院における教育の基準策定と評価に関する調査研究
調査結果

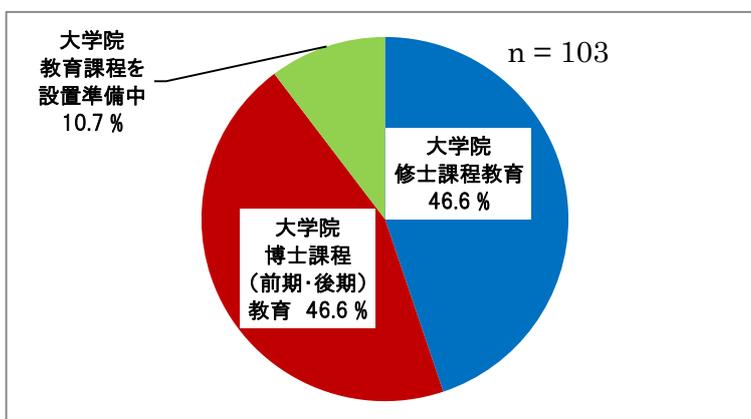
日本看護系大学協議会の会員校の社員の皆様のご協力により、7月下旬～8月上旬にかけて「博士後期課程で修得すべき能力」の調査を実施し、111名より回答を得ることができました。ご協力に感謝申し上げます。下記に本調査の結果を示しました。

1. 回答者の所属・大学院教育実施状況等

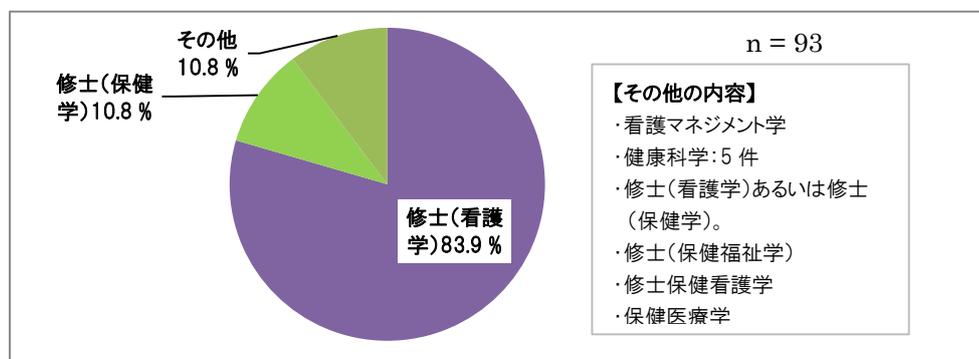
1) 設置主体



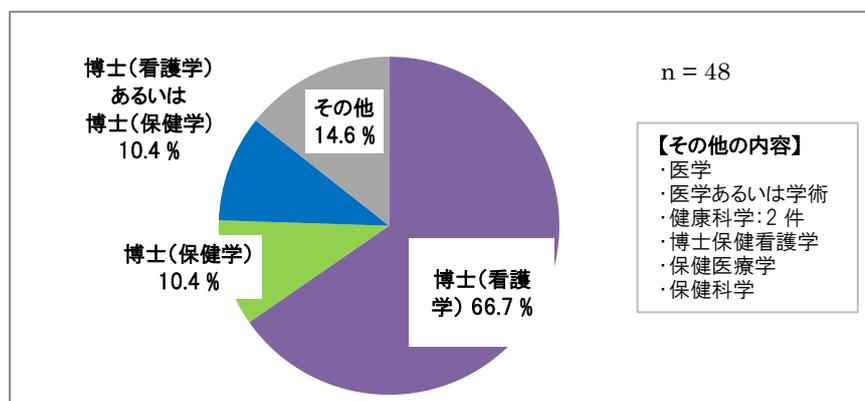
2) 大学院教育の実施



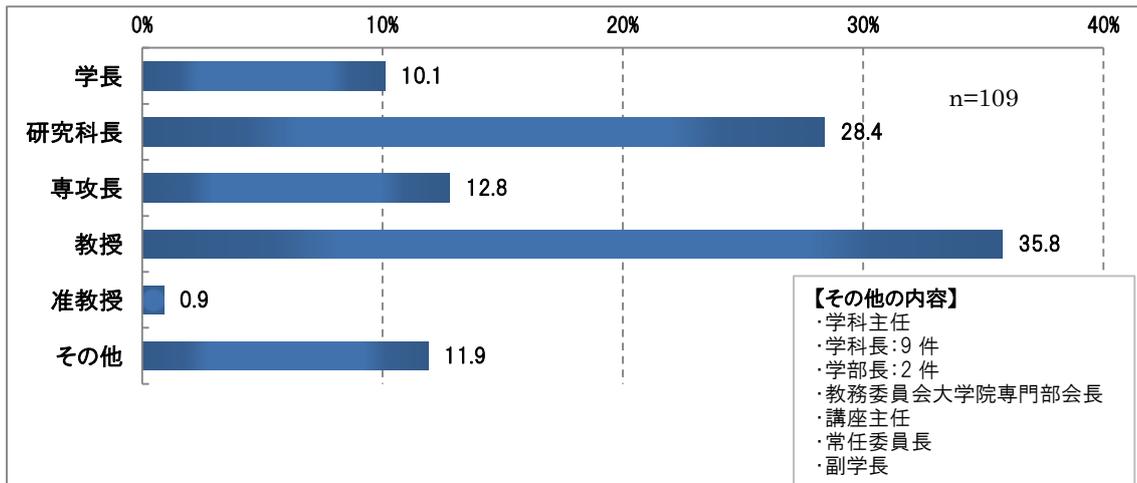
3) 修士課程・博士前期課程で授与している学位



4) 博士後期課程で授与している学位

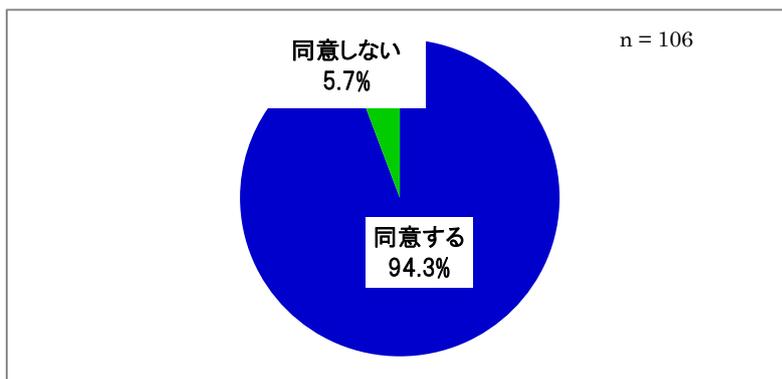


5) 職位



2. 博士後期課程修了生が習得すべき能力について

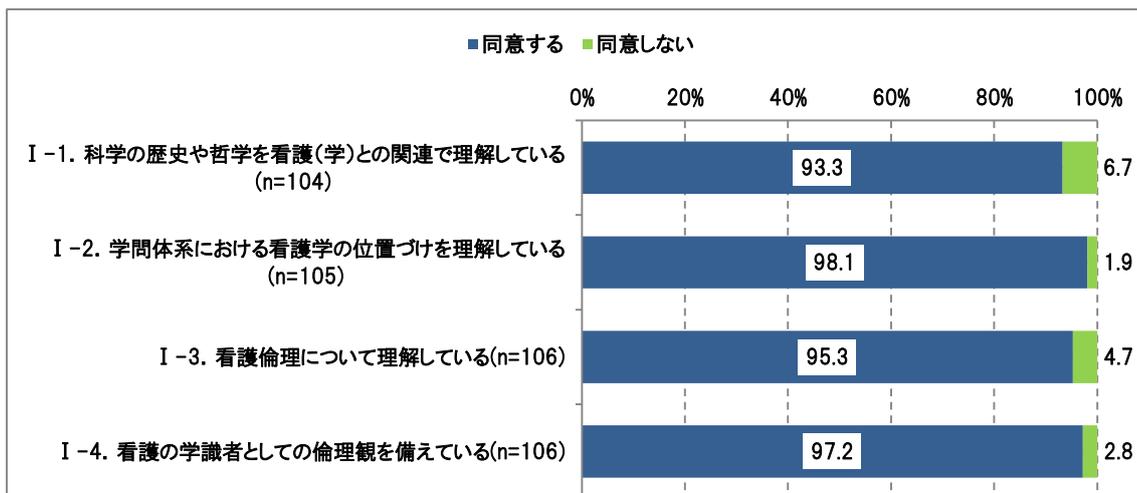
I. 看護哲学を追及する



[同意しない理由]

- ・結果としてそうなるかもしれないが、全員に求めるべきことではないように思う。
- ・同意はするのですが、“哲学”がふさわしい表現がどうかと悩むところです。
- ・看護哲学の追求は修得すべき能力ではなく基盤となる資質である。
- ・必須だと思います。
- ・以下の内容も含め、「看護科学」の立場をとりたい。
- ・下の4つの内容が看護哲学を追求することになるのか疑問。
- ・看護哲学を基盤として理解し、修了後も継続して考えることであれば同意するが、抽象的概念の哲学として追い求める印象を与える。
- ・看護や看護学を他学問や社会現象の中で位置づけることは重要だが、博士課程では「看護哲学の追求」にはならないと思う。
- ・哲学は大学院期間では到達できないだろう。
- ・看護哲学の概念が整理されているのだろうか。本学では真理を探究し続ける能力としている。

<修得すべき能力の内容>



I-1. 科学の歴史や哲学を看護(学)との関連で理解している(n=104)

[同意しない理由]

- ・ 関連で理解するとは、どこまで、何を理解するのか不明確におもわれます。
- ・ 結果としてそうなるかもしれないが、全員に求めるべきことではないように思う。
- ・ これらは修得すべき能力なのか？ どのように形成するものなのか不明確である。
- ・ 欲ばりすぎと思う。
- ・ 看護(学) → 看護・看護学の表記も可能と見られる。
- ・ 後期課程修了後、研鑽を積み、左項 I-1. の能力をつけることができるようになると思う。
- ・ 哲学は大学院期間では到達できないだろう。
- ・ 修士課程か？

I-2. 学問体系における看護学の位置づけを理解している(n=105)

[同意しない理由]

- ・ これらは修得すべき能力なのか？ どのように形成するものなのか不明確である。
- ・ 博士以前に修めているものと考える為。
- ・ 理解している、でよいかは若干疑問がありますが行動レベルの内容も必要かと考えます。
- ・ 修士課程か。

I-3. 看護倫理について理解している(n=106)

[同意しない理由]

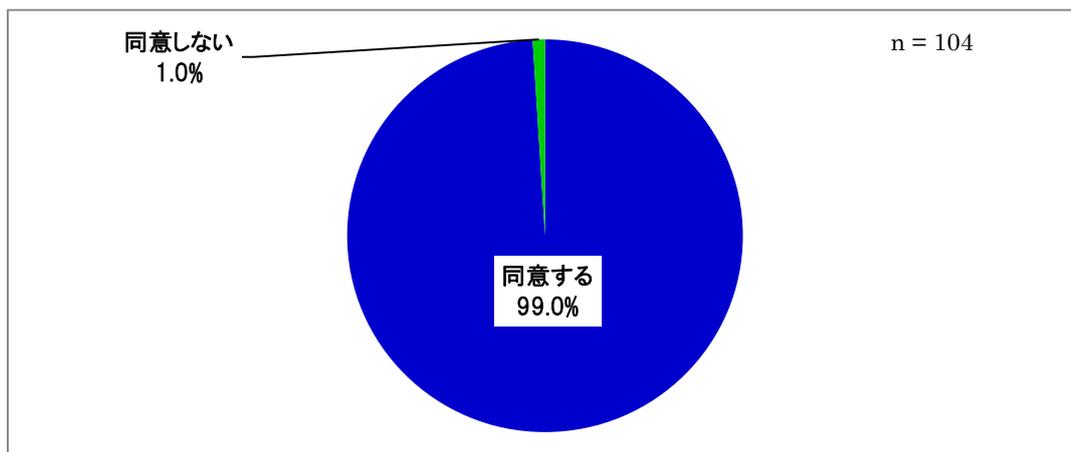
- ・ 修士は前期で修得すべき能力であるため。
- ・ これらは修得すべき能力なのか？ どのように形成するものなのか不明確である。
- ・ 博士後期課程ではより高度なレベルで能力を発揮すべき。Bloom's Taxonomy a high level performance.
- ・ 理解している、でよいかは若干疑問がありますが行動レベルの内容も必要かと考えます。
- ・ 博士後期課程修了者というよりも、看護専門職に必要な能力と思います。
- ・ 倫理を理解するのは重要だが、より創造性の育成に重点をおくべきである。

I-4. 看護の学識者としての倫理観を備えている(n=106)

[同意しない理由]

- ・ 「看護の」は不要では。学識者としての倫理観が良いと思います。
- ・ 「看護の」の限定する必要はないと思います。「学識者として」で十分であると思います。
- ・ これらは修得すべき能力なのか？ どのように形成するものなのか不明確である。
- ・ 「看護の学識者」というより広く「学識者」の方が適切と思うため。
- ・ 具体的な研究論理に関する知識や対応も含むと理解しました
- ・ I-3. と I-4. の違いは、4が研究者として、という意味でよろしいでしょうか？

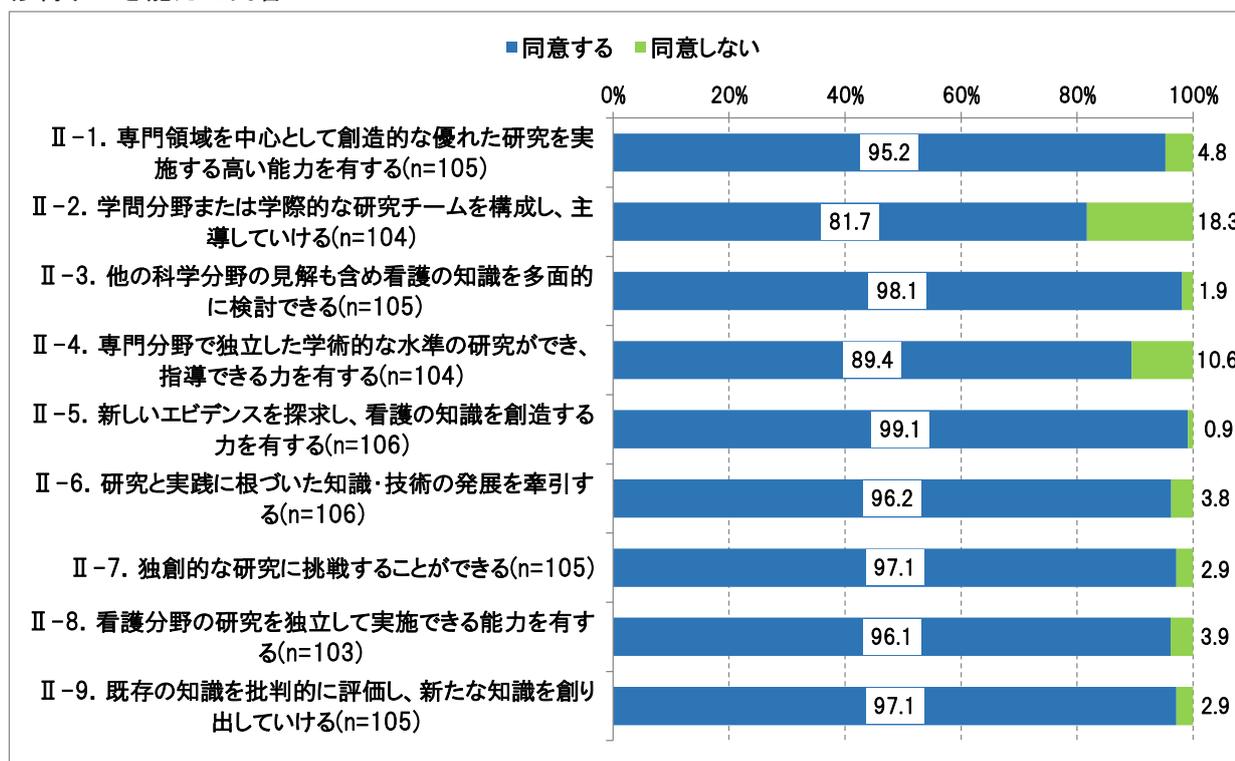
II. 知識や技術を創造する



[同意しない理由]

- ・看護学における知識と技術を創造する。
- ・大学院入学要件がバラバラであり、ところによっては3年課程で到達できるかが疑問であるため。

<修得すべき能力の内容>



II-1. 専門領域を中心として創造的な優れた研究を実施する高い能力を有する(n=105)

[同意しない理由]

- ・“優れた” “高い” は削除した方がいいと思います。
- ・実際どのような能力を表わしているのかわからない。
- ・「優れた」と「高い」の定義があいまいだと思います。何をもって優れ、高いと言うのかの表現が必要だと思います。
- ・現実的でない。
- ・看護学における創造的かつ優れた研究を。
- ・「優れた」「高い」は高すぎると考える。(修了時には)
- ・originality の高いものは要求すべきであるが優れた研究であるのかは別問題。基準がない。
- ・博士課程修了直後は無理である。

II-2. 学問分野または学際的な研究チームを構成し、主導していける(n=104)

[同意しない理由]

- ・研究チームの一員として主体的に役割を荷ない、協働できる学際的な研究チームの主導は難しいと考える。
- ・主導するのは、今後の活動と考えます。
- ・チームを主導していける能力は後期課程修了後に鍛えられると考えるため。
- ・修了後の課題としても良いのでは。やや過大な能力では。
- ・ただし基礎的能力。
- ・修了時点ではなく、「将来…いける」ではないでしょうか？
- ・「主導」するための能力を育成する。
- ・テーマによっては必ずしも主導しなくても良い。チームの一員として機能し必要な調整能力を発揮するでも良い。
- ・「主導していける」は強すぎる。→「主導できる力を有する」としては？
- ・修了時のレベルとして主導までは厳しい…チームの構成員となれる、レベルかと。
- ・VII-5と同じ内容なので、この分野では不要又は、「専門の学問分野」とすれば重複しないと考える。
- ・主導していけるまでには多くの経験が必要で現在の博士課程へ短い臨床経験や教育経験で進学する者が多い段階では困難と考える。
- ・この能力は博士後期課程を修了したばかりでは無理だと思います。その後キャリアをつんで可能となると思います。
- ・研究チームを構成し主導していく能力は難しい。
- ・将来は。
- ・学位取得直後にこの能力を獲得するところまでは難しい。「将来的に」は必要である。
- ・いずれでもない。主導はケースバイケース。
- ・博士修了時点で「学際的…主導していける」かは疑問で、これらが必要なことを理解する、あるいは、計画・企画する…が妥当と思うため。
- ・博士課程の修了は自律した研究者としてのスタートラインなので学際的な研究チームを構成し主導していける能力の獲得はハードルが高いように考えます。
- ・将来、という含みをもたせる方が実際的では？
- ・「または学際的」の意味があいまい。
- ・学際的な研究チームを主導していける力を後期課程の中で修得することには無理があるように思う。後期課程修了後5年、10年たてば可能かもしれませんが
- ・チームメンバーとして能力を発揮することは必要だが、チームを構成・主導まではいかない。
- ・すべての修了生に学際的なチームでのリーダーは困難。「積極的参加できる」程度でよい。
- ・研究チームメンバーになって役割を果すことレベルでよいと思う。
- ・博士課程修了直後は無理である。
- ・基本的知識を有しても（I-4のように「備えている」）、「していける」レベルには未だだと思ふ。そのための訓練期間が要と思う。

II-3. 他の科学分野の見解も含め看護の知識を多面的に検討できる(n=105)

[同意しない理由]

- ・同意しますが検討する事が大学院レベルかと言われると難しいと思います。
- ・より高度なレベルの動詞。
- ・将来的には。
- ・学際的な研究チームの中で検討。
- ・他の科学分野→他の学問分野
- ・「含め」の意味があいまい

II-4. 専門分野で独立した学術的な水準の研究ができ、指導できる力を有する(n=104)

[同意しない理由]

- ・指導できる力は今後の課題であると思われます。
- ・指導できる能力も修了後に指導経験を積む中で修得できるものと考えため。研究まではOK。
- ・前半はII-1. に吸収。
- ・博士課程では学術的な研究ができることは前提（修士修了レベル）であり、他の項目に比べ水準が低い。
- ・指導→遂行できる力を有する
- ・表現の検討。
- ・II-8. との違いが分かりにくい。
- ・指導できるのは「研究初学者を」と対象を限定した方がいいのではないのでしょうか。
- ・指導できる力は難しい。
- ・表現がわかりにくい。「独立して」？
- ・上記II-4. との重複があると思われる。
- ・「指導できる」は修了時には高すぎる。
- ・後期課程では、“指導されて”ようやく独創的な研究をまとめる力をつけた、という段階ではないかと思う。

独立した学術的な水準の研究を指導できるまでには、修了後数年はかかるのではないか。

- ・指導ができる力をどのように評価できるかが疑問。
- ・但し、修了直後には難しい。
- ・基本的知識を有しても（Ⅰ-4のように「備えている」、「していける」レベルには未だだと思ふ。そのため
の訓練期間が要ると思ふ。「指導できる力」までは達しないのでは？
- ・指導できる力？

Ⅱ-5. 新しいエビデンスを探求し、看護の知識を創造する力を有する(n=106)

[同意しない理由]

- ・研究能力とは別のことですか。Ⅱ-1. に吸収されると思ひます。

Ⅱ-6. 研究と実践に根づいた知識・技術の発展を牽引する(n=106)

[同意しない理由]

- ・索引する力は難しい。
- ・多様性があるてよい、と考えるので。
- ・牽引するの具体的な形が分らない。
- ・但し、修了直後には難しい。
- ・基本的知識を有しても（Ⅰ-4. のように「備えている」、「していける」レベルには未だだと思ふ。 その
ための訓練期間が要ると思ふ。「牽引する」には修了時点では難しい。

Ⅱ-7. 独創的な研究に挑戦することができる(n=105)

[同意しない理由]

- ・Ⅱ-1. に吸収されると思ひます。
- ・Ⅱ-4.、Ⅱ-5. との区別がわかりにくい。独創的の意味があいまい。
- ・すべての修了生の独創性を求めるのは過大な期待。努力目標でよいのでは。

Ⅱ-8. 看護分野の研究を独立して実施できる能力を有する(n=103)

[同意しない理由]

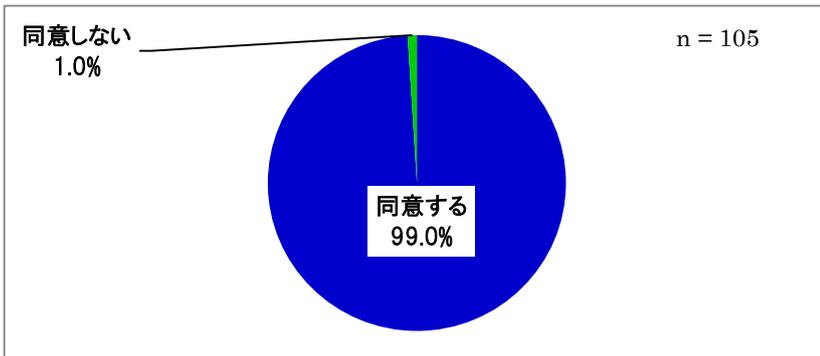
- ・Ⅱ-4. との違いをもう少し書きわけた方が良くと思ひます。
- ・Ⅱ-1. に吸収されると思ひます。
- ・Ⅱ-4. と重複すると思ひます。
- ・“独立して実施できる”という表現がわかりにくい。博士後期課程のレベルが疑問。
- ・Ⅱ-4. と内容が重なるのでは？
- ・上記Ⅱ-4. との重複があると思われる。
- ・「独立して実施」はかなりハードルが高い。通常は、ポスドクとして研究力を磨く。

Ⅱ-9. 既存の知識を批判的に評価し、新たな知識を創り出していける(n=105)

[同意しない理由]

- ・Ⅱ-3. と同じ。
- ・Ⅱ-5. と重複すると思ひます。
- ・～新たな知識を創出する能力を有する。☆創出までは困難
- ・Ⅱ-5. との違いはどのようなことか？

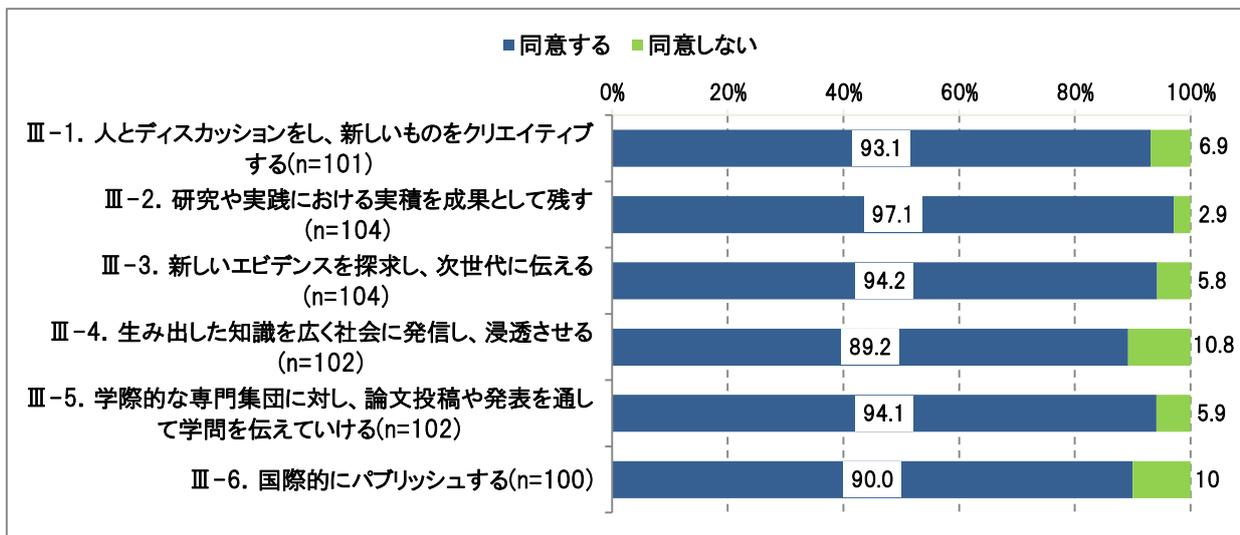
Ⅲ. 発言力をもつ



[同意しない理由]

- ・ 発言ですと言語的意味に限定されますので発信（行動等を通して含む）の方が良いのではと思います。
- ・ 研究論文を書くことはⅡに含まれると考えます。論文を公表したのちに、それを土台に発言する力は必要と思います。
- ・ 英語でいうと powerful voice でしょうか。研究との関連から考えると何かびんときません。

<修得すべき能力の内容>



Ⅲ-1. 人とディスカッションをし、新しいものをクリエイティブする(n=101)

[同意しない理由]

- ・ 日本語でお願いしたいです。このことは博士でなくても求められると思いますが…。
- ・ なぜ日本語でないのか。
- ・ クリエイトするが正しい表示のしかた。Create する。Creative は形容詞。
- ・ 「クリエイティブ」は形容詞です。
- ・ 内容は必要と思いますが上記のカテゴリのもとにおくことがそぐわないと思います。・「クリエイティブ」は日本語に修正した方がよい。
- ・ 同意しますが「クリエイティブする」は、表現としてちょっと変！ クリエイトする？！
- ・ これは基本的な能力でアドバンスの能力とは思えない。
- ・ クリエイトは、創造する？創出する？ 日本語の方がよいのではないのでしょうか。
- ・ 創造ではなくクリエイティブという語を用いる根拠が不明。
- ・ 表現の精選が必要と思われる。
- ・ 「人とディスカッションをし…」という文章が状況・方法を限定しすぎているように思います。
- ・ 内容は同意します。表現として「クリエイティブする」は「創造する」がよいのではないのでしょうか？
- ・ 一般的な能力のように受取るが…。仮に残すにしても、日本語の表現にひと工夫が必要である。(英語のディスカッション、クリエイティブは日本語で表現すべき)。
- ・ その状況で Best なものを選択できるレベル。
- ・ ‘クリエイティブする’は日本語としておかしい。‘創造する’の方が良い。

Ⅲ-2. 研究や実践における実績を成果として残す(n=104)

[同意しない理由]

- ・能力Ⅱの研究に含まれると思います。
- ・「成果」の意味が不明瞭です。
- ・内容は必要と思いますが上記のカテゴリのもとにおくことがそぐわないと思います。
- ・「…成果として残す」のみならず、「…成果を発信する」必要があると思います。文章の変更だけなのでどちらにつけるか迷いました

Ⅲ-3. 新しいエビデンスを探求し、次世代に伝える(n=104)

[同意しない理由]

- ・前半は能力Ⅱです。後半はVに含まれるか？
- ・次世代に伝える。浸透させるのは博士個人の能力というよりも発信の結果将来的に求められるものである。
- ・Ⅱ. と重複しています。
- ・内容は必要と思いますが上記のカテゴリのもとにおくことがそぐわないと思います。
- ・「次世代に伝える。」という文言が適切かどうか疑問です。
- ・「次世代に伝える」はあいまい。
- ・3年程で到達できるかが疑問。
- ・「伝える」レベルではなく「伝える力をもてる素養を備える」程度かと。

Ⅲ-4. 生み出した知識を広く社会に発信し、浸透させる(n=102)

[同意しない理由]

- ・～社会に発信させる。浸透させるは難しい。
- ・社会に発信、といっても、専門誌での公表等で、浸透するかどうかは発信者の努力だけではカバーしきれないように思う。
- ・“浸透される”には、後期課程修了後の研究活動を積む中で実現すると考えるため発信まではOK。
- ・次世代に伝える。浸透させるのは博士個人の能力というよりも発信の結果将来的に求められるものである。
- ・「発信」と「浸透」は分けた方がいいと思います。
- ・浸透されるため発信する。☆浸透するのは別の要素も必要。
- ・内容は必要と思いますが上記のカテゴリのもとにおくことがそぐわないと思います。
- ・「浸透させる」のは博士修了時点で、難しいと考えます。
- ・知識の中で一般の人々に意味のあるもの。具体的にはⅡ-2. とのちがいは何か。社会的提言などか？
- ・「浸透させる」は。
- ・発信するのは科学者としての説明責任だが、浸透するところまでは個人の責任でない。
- ・3年程で到達できるかが疑問。
- ・姿勢としては必要だが、修了直後から求めるのは難しい。
- ・修了時には浸透まではむずかしいのではないか。
- ・「浸透させる」のは難しい。達成可能なものとして教えたいと思うと「伝える」レベルではなく「伝える力をもてる素養を備える」程度かと。

Ⅲ-5. 学際的な専門集団に対し、論文投稿や発表を通して学問を伝えていける(n=102)

[同意しない理由]

- ・論文公表は研究能力Ⅱの中に含まれると思います。Ⅱに公表に関する項をいれてもよいかもしれませんが。そうしていただければ項目Ⅲはなくてもよいかもしれません。Ⅳに吸収される部分もあると思います。
- ・後半がB-Ⅱ-6. と重複しているので学会としての声明文とか、他職種との会議での発言を含めてはどうでしょうか。
- ・内容、分野による特殊性によって対応しても良いのではないか。
- ・内容は必要と思いますが上記のカテゴリのもとにおくことがそぐわないと思います。
- ・「学問を伝えていける」ということのレベルがわかりにくい。「成果を発信する」ことでしょうか。
- ・「学際的な専門集団」の意味がわかりにくい。近接領域？ 関連 Ⅲ-2. との区別は？
- ・意味が明確に伝わらないため、判断が困難（e x. 学問を伝えて）。
- ・「学問を伝えていける」は不適切な表現。
- ・他領域の学際的な専門集団に対してまでは、実情にそぐわない。
- ・「学問を伝えていける」は難しい。レベルは一段低くなるのではないか？

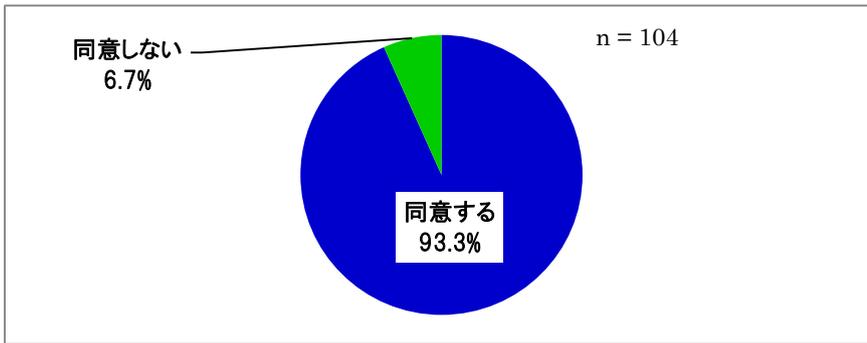
Ⅲ-6. 国際的にパブリッシュする(n=100)

[同意しない理由]

- ・修了後でも良いと考えるため。
- ・パブリッシュとは何でしょうか？できるだけ日本語を使用した方がⅡ-5. との違いが明確になると思います。
- ・徐々にでよいと考えている。
- ・かなり困難だと思うが、その方向性を目指すべきである。という意味で○です。

- ・Ⅱ－４． と組み合わせの方がいいと思います。
- ・海外の雑誌に掲載されるのは難しい。
- ・「パブリッシュする」の表現は日本語にした方がよい。
- ・内容、分野による特殊性によって対応しても良いのではないか。
- ・必要と考えるが３年間の課程で達成できるのか疑問がある。
- ・内容は必要と思いますが上記のカテゴリのもとにおくことがそぐわないと思います。
- ・パブリッシュの意味がわかりにくい。国際学会や国際誌での成果発表のことでしょうか。
- ・ＳＣＩ／ＳＳＣＩのジャーナルに掲載されるということでしょうか。
- ・表現の精選が必要。
- ・内容的には同意します。表現として「パブリッシュする」は「公表する」でよいのではないのでしょうか？
- ・日本語として工夫が必要である。「研究成果を国際学会や国際的な雑誌に投稿し、公表する」など。
- ・努力目標でもよいのでは。
- ・全員が到達できるとは思えない。
- ・修了時、海外論文（学会）への投稿は求めなくてもよい。

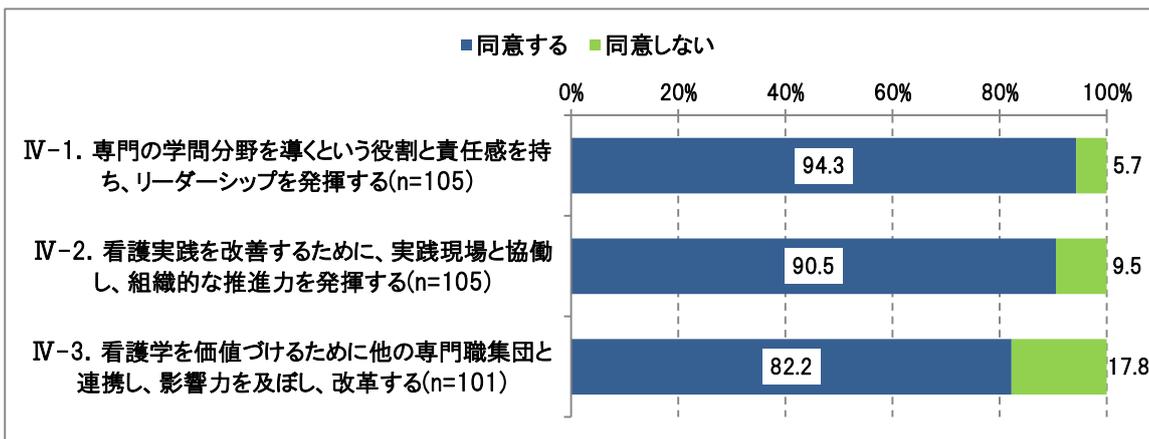
IV. 変革力をもつ



[同意しない理由]

- ・ 変革を促すための行動力等は有している必要があると考えるが、それは変革力ではない。
- ・ かなり困難。
- ・ 現実的でない。
- ・ 修了時の能力としてはなくとも良い。将来そうなって欲しい。
- ・ 変革という言葉に違和感を感じます。
- ・ 「変革力」が下の3つを統合した概念にふさわしいと言えるか疑問。
- ・ 求めたいが修得すべき能力というよりも修了後の発展課題のレベル。

<修得すべき能力の内容>



IV-1. 専門の学問分野を導くという役割と責任感を持ち、リーダーシップを発揮する(n=105)

[同意しない理由]

- ・ “導く”のではなく“担う”と考えるため。
- ・ すべて「将来…する」とした方が適切ではないでしょうか？ 修了時点でこれらをすべて発揮できる必要はないと思います。
- ・ VIに吸収されると思います。
- ・ 現実的でない。
- ・ 修了時の能力としてはなくとも良い。将来そうなって欲しい。
- ・ 修了直後には難しいかも…。博士を取得する年代による。
- ・ 「発揮できる力を備える」レベルかと。

IV-2. 看護実践を改善するために、実践現場と協働し、組織的な推進力を発揮する(n=105)

[同意しない理由]

- ・ そうなることが望ましいが、研究によっては、そのような結果となるのが難しいものもあるだろう。
- ・ 実践家と研究者が協働して研究を行い、成果を公表することそのものが変革につながると考えているのでその後の文章までは課程修了までには困難である。
- ・ すべて「将来…する」とした方が適切ではないでしょうか？ 修了時点でこれらをすべて発揮できる必要はないと思います。
- ・ 組織的な推進力を発揮するレベルまでは無理か。
- ・ 「研究を通して」は不要だと思います。
- ・ 修了時の能力としてはなくとも良い。将来そうなって欲しい。

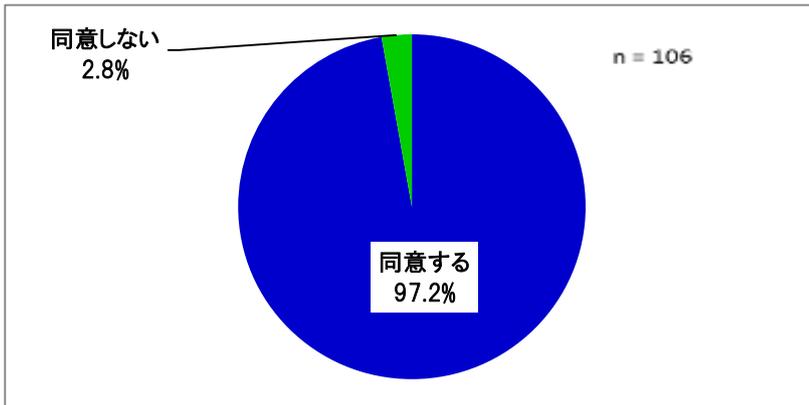
- ・組織的な推進力までは高いと考える。
- ・「実践現場」より「実践分野」としてはどうでしょうか。
- ・組織的な推進力を持たせるような教育が現在の博士課程で出来るのかがかなり疑問。
- ・修了直後には難しいかも…。博士を取得する年代による。
- ・「発揮できる力を備える」レベルかと。修了してすぐは難しい。

IV-3. 看護学を価値づけるために他の専門職集団と連携し、影響力を及ぼし改革する(n=101)

[同意しない理由]

- ・そうなることが望ましいが、研究によっては、そのような結果となるのが難しいものもあるだろう。
- ・他職種との連携は看護学を価値づけるために行うわけではないと考えるため、課程修了までには困難。“人々の健康のために行うのである”
- ・「…他の専門職集団と連携し…」は修了後の課題としても良いのでは。やや過大な能力では。
- ・すべて「将来…する」とした方が適切ではないでしょうか？ 修了時点でこれらをすべて発揮できる必要はないと思います。
- ・価値がないようにもとられかねないので価値を高めるとしてはどうでしょうか？
- ・ここまで必要か？
- ・“他の専門職集団に影響を及ぼす”の内容に疑問があります。影響したり、改革することは難しいと思われまます。課題に対し、他職種と協働して学問的研究や社会貢献に役立てるようにすることは必要と考えられます。
- ・？の価値を他者に伝える為に。上から目線で I P E (Interdisciplinary な言語としては適切ではない)。
- ・現実的でない。
- ・他の専門集団に影響を及ぼし、改革するのは難しい。
- ・改革するための影響力を発揮する。
- ・看護学を価値づけるためではなく連携して目指すところが目的と考える。改革するのは他の専門職集団なのか疑問。
- ・修了時の能力としてはなくとも良い。将来そうなって欲しい。
- ・看護実践の変革？
- ・「影響力をもつ」ことは同意できるが、「変革する」は、「牽引する」の方が適切であるように思う。
- ・「…連携し、」までは可能と思いますが、それ以降は、難しいと考えます。
- ・「他の専門職集団と連携し、それらに影響力を及ぼす」ことは可能と考えますが、改革することは他の能力を必要とすると思います。
- ・「看護学を価値づける」わかりにくいし共感しにくい。
- ・「価値づける」が理解しにくい。
- ・内容的には同意しますが、「専門職集団」とするのはどういう意図でしょうか？ 「専門職」でよいのではないのでしょうか？
- ・価値づけることを目的とするのではなく、連携するなかで価値を認めさせていくべきでは。
- ・組織的な推進力を持たせるような教育が現在の博士課程で出来るのかがかなり疑問。
- ・修了直後には難しいかも…。博士を取得する年代による。
- ・「発揮できる力を備える」レベルかと。

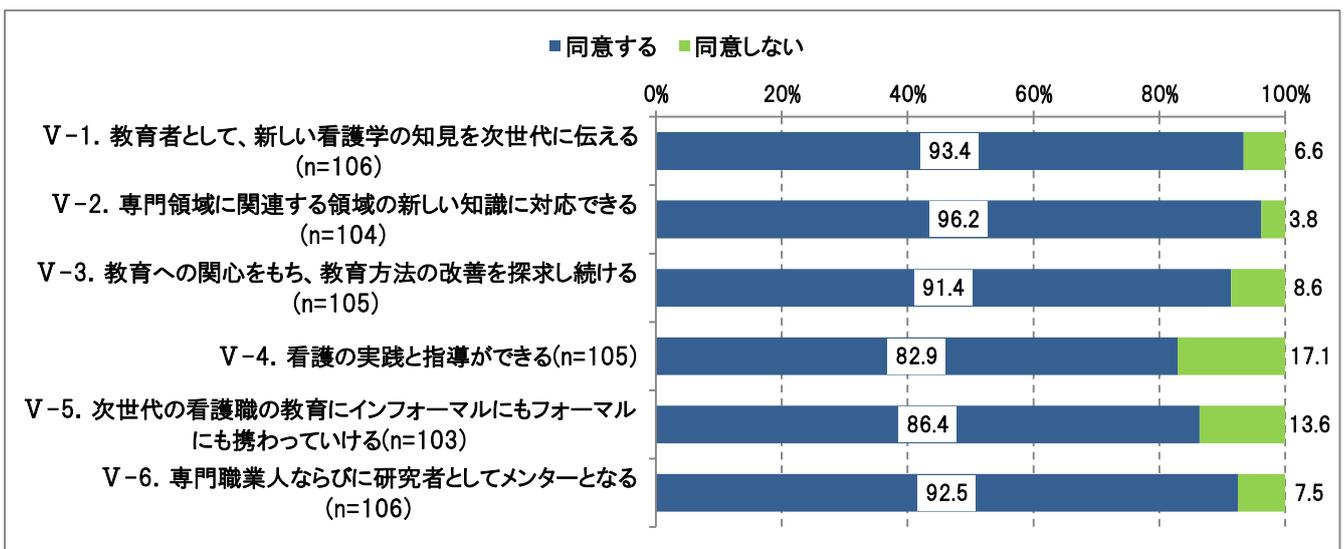
V. 次世代を育てる教育力をもつ



[同意しない理由]

- あれば望ましいが、博士課程は教育者の養成を目的とするものではない。
- 教育力をもつかどうかは、個人差があるのでは。
- 将来的には。
- この項目には同意するものですが、博士課程修了生は、看護実践の指導のみならず、研究の活用や、研究指導の役割もあり、次世代の研究者の育成に関する教育力が必要と思います。そこで、V. の説明文に研究指導、研究者の育成も含めたらよいと思いました。
- 博士前・後期において教育者としてのカリキュラムが不足している。

<修得すべき能力の内容>



V-1. 教育者として、新しい看護学の知見を次世代に伝える(n=106)

[同意しない理由]

- 研究者として（リーダーシップを発揮する）が良いのでは？
- 教育者としてではなく、知見を次世代に伝える能力でよい。
- 全般的に教育の本質が十分表現できていないと思います。JANPUが提言している学士レベルの到達目標に基き、それらを修得させるための教育能力を、教育原理・理論と統合させてはいかがでしょうか。
- 「教育者」とは限らないと思いました。
- 博士の言動。教育現場にすることが多い現状にあり教育現場以外でも教育者としてという位置づけは大事であるが深さがちがうのでは。
- 必ずしも必要ではない（教育者が教育を職業とする者という意味ならば）。
- 博士前・後期において教育者としてのカリキュラムが不足している。。
- すぐには伝えられない。その力を備えるレベルがよいのでは？
- 博士課程を修了しただけでは無理ではないか。

V-2. 専門領域に関連する領域の新しい知識に対応できる(n=104)

[同意しない理由]

- ・「知識に対応できる」という概念が漠然としていて、評価できない。
- ・対応できるの意味が十分に汲みとれません。
- ・どういう意味か？
- ・全般的に教育の本質が十分表現できていないと思います。JANPUが提言している学士レベルの到達目標に基き、それらを修得させるための教育能力を、教育原理・理論と統合させてはいかがでしょうか。
- ・この意味範囲は？看護学か下位の〇〇看護学か？
- ・意味が明確に伝わらないため、判断が困難。
- ・博士後期課程修了者でなくても看護専門職であれば期待される能力と思います。
- ・「教育力」のカテゴリーで本当によいか？VI-2.とも関係があるのではないか。

V-3. 教育への関心をもち、教育方法の改善を探求し続ける(n=105)

[同意しない理由]

- ・必ずしも必要とは思わない。
- ・博士後期課程以前の修了生との違いがはっきりしません。同じでよいとすると入れる必要が不明。
- ・全般的に教育の本質が十分表現できていないと思います。JANPUが提言している学士レベルの到達目標に基き、それらを修得させるための教育能力を、教育原理・理論と統合させてはいかがでしょうか。
- ・博士の言動。教育現場にすることが多い現状にあり教育現場以外でも教育者としてという位置づけは大事であるが深さがちがうのでは。
- ・全員が備えるべき、とまでは言えない。
- ・博士後期課程修了者でなくても看護専門職であれば期待される能力と思います。
- ・必ずしも必要ではない。望ましい条件である。
- ・教育だけではなく臨床改善の視点もありうる。
- ・博士前・後期において教育者としてのカリキュラムが不足している。

V-4. 看護の実践と指導ができる(n=105)

[同意しない理由]

- ・修士または前期課程までに至る期間で求められるものであると考えるため。
- ・実践の指導ができるかどうかは個人差があるのでは。
- ・専門領域に関わる看護実践の指導ができる。
- ・必ずしもそうでなくてよい。
- ・他とレベルが異なっている。
- ・博士後期課程以前の修了生との違いがはっきりしません。同じでよいとすると入れる必要が不明。
- ・能力が明確でない。
- ・どのレベルでやるのか？もっと、高度なレベルで学修者を育成する必要がある。
- ・全般的に教育の本質が十分表現できていないと思います。JANPUが提言している学士レベルの到達目標に基き、それらを修得させるための教育能力を、教育原理・理論と統合させてはいかがでしょうか。
- ・この表現は、人によって想像する状況解釈が異なる。
- ・現実には、どうなのだろうか。看護を実践するにはエキスパートのような臨床経験等が必要だが、そのような背景をもつD修了者は少ない。
- ・博士というより修士に期待される能力。
- ・博士後期課程修了者でなくてもこの内容能力は備えておくべきものと思います。
- ・必ずしも必要ではない。
- ・あまりにも一般的で、学士ナースでもできることが期待されることではないかと思う。
- ・一律に実践を求めなくてもよいのでは。
- ・両方ともを一人の人間が追求するのは難しい。
- ・研究者養成の場合、該当しない。
- ・博士課程修3生を教育研究者あるいは研究者をさしているのか、高度実践者を育成しようとしているのか不明確。
- ・すぐには伝えられない。その力を備えるレベルがよいのでは？
- ・修士課程か。

V-5. 次世代の看護職の教育にインフォーマルにもフォーマルにも携わっていける(n=103)

[同意しない理由]

- ・インフォーマルにもフォーマルにも携われるかは個人差があるのでは。
- ・？文章がよくわかりませんでした。
- ・「インフォーマルにもフォーマルにも」説明しすぎ→「積極的に」
- ・漠然としていて、特に博士に特化したこととは言いがたい。
- ・教育とは潜在的、顕在的に行われるのが当然のものであるから、あえて必要なし。

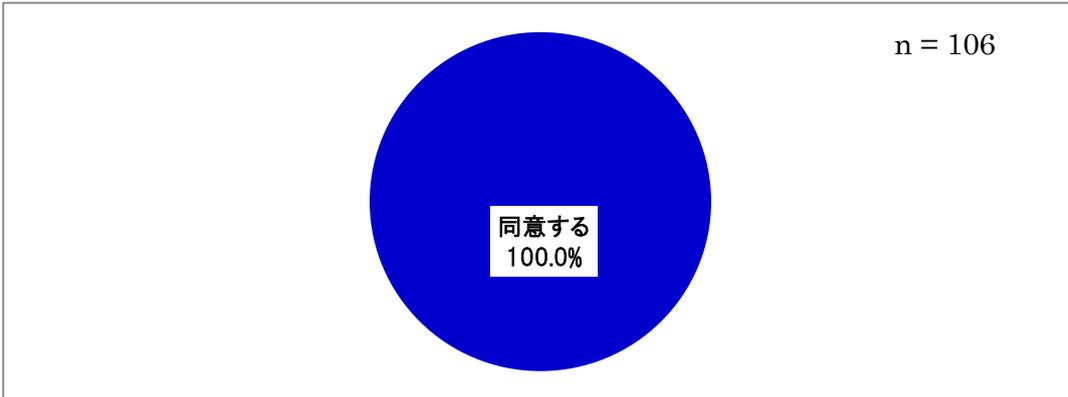
- ・インフォーマルの意味が十分にくみとれません。
- ・インフォーマル・フォーマルは必要でしょうか？
- ・ばく然としている。
- ・全般的に教育の本質が十分表現できていないと思います。JANPUが提言している学士レベルの到達目標に基き、それらを修得させるための教育能力を、教育原理・理論と統合させてはいかがでしょうか。
- ・表現の意味がわかりにくい。
- ・インフォーマルとフォーマルが具体的にどのようなことをさすのかわかりにくい。
- ・博士というより修士に期待される能力。
- ・インフォーマルにも携われるの意味が不明確。
- ・内容的には同意しますが、「インフォーマルにもフォーマルにも」は必要ないのではないのでしょうか？
- ・formal informal という形式が大切なのかどうか、良く理解できない。上記V-1. でカバーできるように思う。
- ・インフォーマルの意味が不明。
- ・「意欲をもつ」程度では。

V-6. 専門職業人ならびに研究者としてメンターとなる(n=106)

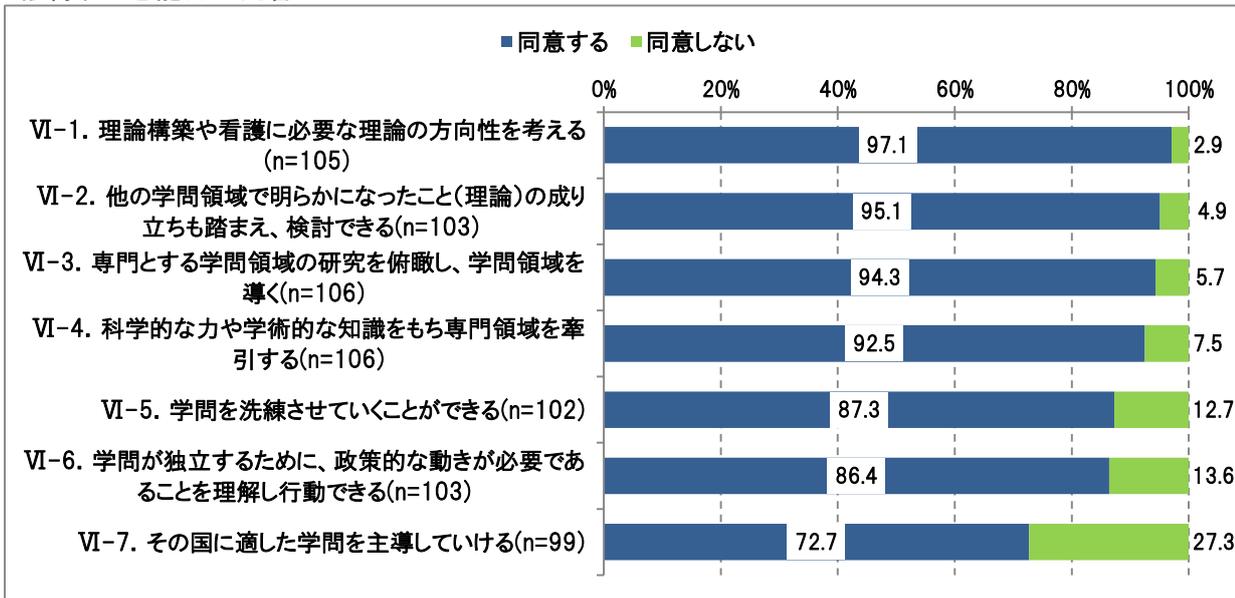
[同意しない理由]

- ・後期課程の中で限定された期間で育うのは難しい。
- ・メンターを日本語にした方がよいと思います。
- ・研究者は必ずしもメンターでなければならないとはいいがたい。
- ・“メンター”という表現は“相談者”ということと同じですか？
- ・修了時点で研究者としてのメンターとなれるのか疑問。
- ・博士というより修士に期待される能力。
- ・メンターシップがとれる可能性まで期待できない。
- ・博士課程修3生を教育研究者あるいは研究者をさしているのか、高度実践者を育成しようとしているのかが不明確。
- ・「～となることができる力を備える」では？

VI. 看護学を発展させる



<修得すべき能力の内容>



VI-1. 理論構築や看護に必要な理論の方向性を考える(n=105)

[同意しない理由]

- ・領域（研究対象）によって異なる。
- ・「考える」→「探究できる」
- ・「や」が、何と何を結びつけているのか不明確です。
- ・二つの内容が含まれているためわかりにくい。理論を構築するのか、あるいは理論構築について考えるのか、どちらでしょう。
- ・「理論の方向性を考える」という意味がわかりにくいです。

VI-2. 他の学問領域で明らかになったこと(理論)の成り立ちも踏まえ、検討できる(n=103)

[同意しない理由]

- ・他の学問領域で明らかになったことの成り立ちまで学びを深めることはむずかしいのではないかな。
- ・何を、何のために検討するのか？
- ・学際的という用語を使えばⅦを吸収できます。と思います。
- ・→「他の学問領域の見識を踏まえ、看護学の独自性を明確にする」
- ・看護学以外の学問領域でという意味でしょうか？専門外のことを成り立ち…などをどのように検討するのか疑問です。
- ・“けんとう”はレベルが低い。
- ・「(理論)の」→「(理論)を、その」「成り立ちも」→「成り立ちを」「検討」→「吟味」
- ・何を検討するのかが不明確。
- ・文章の意味が明確とはいえない。
- ・何を検討するのでしょうか？「他の学問領域で明らかになったこと(理論)を成り立ちも踏まえて理解し、看護学の発展に活かす」ということであれば、同意します。

VI-3. 専門とする学問領域の研究を俯瞰し、学問領域を導く(n=106)

[同意しない理由]

- ・“導く”のではなく“担う”と考えるため。
- ・違いが不明確です。
- ・「導く」というレベルはむずかしいのではないのでしょうか。
- ・修了時に修得しているという点では「導く」は高すぎる。
- ・後期課程では、「学問領域を導く」までにはいかないのではないかと。「学問領域を開拓する」のはどうか。
- ・「導く」は踏みこみすぎでは？

VI-4. 科学的な力や学術的な知識をもち専門領域を牽引する(n=106)

[同意しない理由]

- ・今後の課題と思われまます。
- ・“牽引”ではなく“担う”としてはどうですか？
- ・能力？
- ・違いが不明確です。
- ・将来的には。
- ・専門領域の発展に「貢献できる」レベルが妥当なのではないか。
- ・「論理的思考」も必要ではないかと考えます。
- ・科学的な力、学術的な知識} あいまい。
- ・修了時に修得しているという点では「導く」は高すぎる。
- ・「科学的な力」は言葉足らずである。具体的に何をいうのかを表現する方がよい。
- ・VI-3. との違いが理解しにくい。
- ・「導く」は踏みこみすぎでは？

VI-5. 学問を洗練させていくことができる(n=102)

[同意しない理由]

- ・学問を洗練するという意味が具体的に伝わり難い〔看護を学問として高尚にしてゆくこと！これは何を意味するのか。法学は歴史的には洗練されたものと位置づけられるが、果してそうなのか？〕
- ・“学問を発展させる”にしてはどうか？洗練を使用すると現在の学問が未熟であるということになってしまうのでは？
- ・学問の洗練とは？
- ・意味が不明確である。
- ・ゆっくり進化・発展させる潜在的能力でよいと考えている。
- ・VI-1. ～VI-4. までの中に内在されている。
- ・「洗練」していく方法が書かれているといいと思います。
- ・現実的でない。
- ・必要と考えるが、3年間の課程でここまで達成できるか疑問がある。
- ・理念的には賛同するが抽象度が高すぎる表現である。
- ・「洗練させる」の意味がわかりにくい。
- ・意味の把握が何をしめしているのか不明瞭。
- ・「学問の洗練」の意味がわかりにくい。
- ・表現したい内容が不明確。
- ・「学問の洗練」が不明。

VI-6. 学問が独立するために、政策的な動きが必要であることを理解し行動できる(n=103)

[同意しない理由]

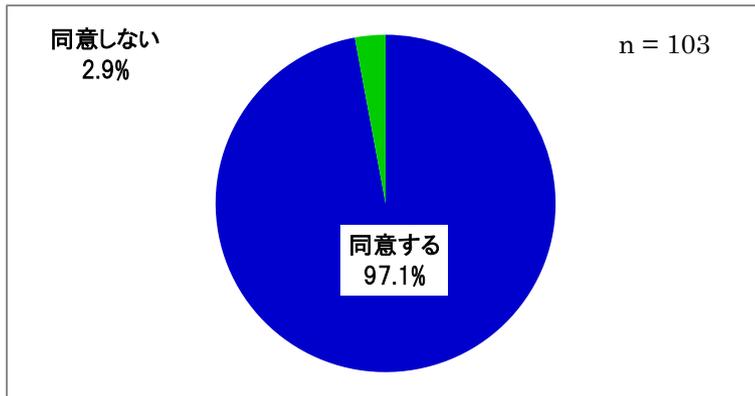
- ・意味が理解できません！
- ・行動できるかは期待するものとしては理解できない。結果としては行動までは予測できないのでは。
- ・意味が不明確である。また学問の確立と政策を結びつけるのは反対である。
- ・意味がわかりにくいです。独立性？政策的動きとは？
- ・IV変革力の方ではないのでしょうか。学問の独立の為ではなく、看護を社会に役立てるために、だと思います。
- ・ゆっくり進化・発展させる潜在的能力でよいと考えている。
- ・低すぎる表示。理解するだけでは行動出来ない。分析、評価が必要。
- ・IVと重複すると思います。
- ・「行動できる」レベルは、レベルが高すぎるのではないかと。
- ・学問の独立－政策的
- ・表現の精選が必要。
- ・文章の意味が不明確。
- ・学問の独立性、「中立性」を守るためなのか、どうか分かりにくい。
- ・「行動できる」はレベルが高い。
- ・博士課程修了だけでは無理かと思う。

VI-7. その国に適した学問を主導していける(n=99)

[同意しない理由]

- ・意味するところが伝わらない。異和感がある。人々の社会・文化を踏まえた看護学を主導していけるでしょうか？
- ・意味が理解できません！
- ・その国に適した学問の主導とは？
- ・意味が不明確。
- ・国という概念ではなく対象が良いのでは。軍国主義的ニュアンスを感じる。
- ・「その国に適した学問」という意味が理解できないので。
- ・ゆっくり進化・発展させる潜在的能力でよいと考えている。
- ・「その国に適した学問」とは？ 理解しにくいです。
- ・困難に思われます。学問はその国だけのものではないのではないのでしょうか。
- ・グローバルの時代にこの●●のしかたはせますぎる。
- ・困難である。
- ・学問が適する・適しないということはないのではないのでしょうか。学問を、その国・文化・ニーズに適した方向へ特徴づけることはできると思います。
- ・国際性を備えたうえでその国に適した学問を主導。
- ・抽象的すぎる。
- ・必要と考えるが、3年間の課程でここまで達成できるか疑問がある。
- ・難しいと思う。
- ・その国に適した学問とは、何か。
- ・専門領域におけるリーダーシップを発揮することは求められると思いますが国に適した学問の主導は、レベルが高すぎるように思う。
- ・その国に適した学問とは何をさすのか不明。
- ・「その国に適した学問を追求していける」であれば可能であると思います。
- ・国レベル？ 高いのではないか？
- ・表現の精選が必要。
- ・赤線部分について、「その国に適した看護学の発展を主導…」にしてはどうでしょうか。
- ・文章の意味が不明確。
- ・日本以外の外国について考えたとしても、後期課程の目標としては、「主導していける」は過大な表現。「その国に適した学問の構築に向けて多面的な検討ができる」くらいではないか。
- ・学問をその国に適したものに発展させていく方がよくないですか？
- ・国レベルまでの到達は厳しいのではないかと思う。
- ・全員に期待することは難しい。
- ・「主導」は難しいと思う。もう少し低いレベルがよい
- ・博士課程修了だけでは無理かと思う。

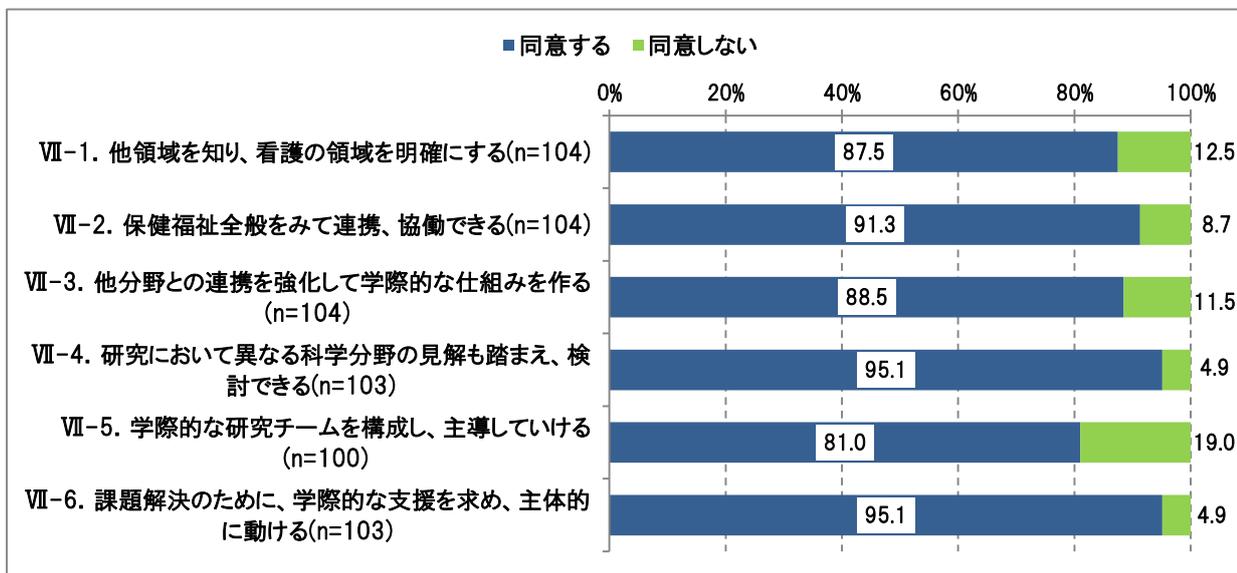
VII. 学際的な視点をもって対応する



[同意しない理由]

- ・“対応”とは何に対応するのか意味がわかりません！
- ・ここのみ「対応」がありますが、よいでしょうか？
- ・「対応」が、何に対する対応なのかわかりません。

<修得すべき能力の内容>



VII-1. 他領域を知り、看護の領域を明確にする(n=104)

[同意しない理由]

- ・他領域を知ることが重要だが看護の領域の明確化は、それ自体を目的とするのはちがうように思う。
 - ・他の学門領域？看護学？でしょうか？意味がわかりません。
 - ・他領域を知りの意味がわかりにくい。なくてもOK？
 - ・看護実践の領域なのか、看護学の領域なのか、不明である。
 - ・他学問からもおおいに学ぶべき。
 - ・看護の領域を区分化することですか？分野でしょうか、あいまいです。
 - ・他領域の範囲は？
 - ・まとめてもよいのではないのでしょうか。
 - ・「明確にできる」？
 - ・看護の領域は可変性がある。すでにある程度明確になっている。博士の能力？
 - ・他領域と他分野の混在。「知り」があいまい。
 - ・セクショナリズムに陥らないか。連携するなかで役割を明確にすべきではないか。
 - ・他領域と看護との関係性の表現には留意が必要。看護学は他領域の研究手法をどんどん取り込むべき。
 - ・「他領域を知り」がどの程度かが明確でないことと、他学問領域となると専門範囲が広すぎる。どこまでを指しているのか？
- 「明確にすることができる力を持ちうる」程度で全てにはあてはまりにくいと思う。

Ⅶ-2. 保健福祉全般をみて連携、協働できる(n=104)

[同意しない理由]

- ・そういう場合もあるだろう。
- ・後期課程に限ったことではないと思います。
- ・保健・医療・福祉領域と連携、協働できる？
- ・まとめてもよいのではないのでしょうか。
- ・医療も加えたほうがよいと思います。
- ・学士レベルとも思えるが…。医療を除いた意図は？
- ・分野によってはそのようなことができるか疑問。
- ・「保健福祉全般」をみるのは理想ですが、修了時点では無理だと思います。
- ・医療が必要！

Ⅶ-3. 他分野との連携を強化して学際的な仕組みを作る(n=104)

[同意しない理由]

- ・そういう場合もあるだろう。
- ・後期課程に限ったことではないと思います。
- ・「仕組みづくりは」修了後の課題としても良いのでは。やや過大な能力では。
- ・何のために学際的な仕組みが必要なのか不明。
- ・他の学問分野でしょうか？
- ・→「学際的な協力体制を構築できる」
- ・他学問からもおおいに学ぶべき
- ・看護学以外ですか？
- ・「何の」仕組みか、不明確です。
- ・将来的に目指すことができる能力として表現した方がよい。
- ・仕組みを作るレベルまで求められるか、むずかしい。「学際的な研究に貢献できる」？
- ・仕組みとは何か。
- ・他領域と他分野の用語の混在。この場合の学際的な仕組みとは。実践としてなのか学問としてなのかが不明確。
- ・「作る」ことは難しい。

Ⅶ-4. 研究において異なる科学分野の見解も踏まえ、検討できる(n=103)

[同意しない理由]

- ・何を検討するの？
- ・他学問からもおおいに学ぶべき。
- ・何を検討するの？
- ・「何を」検討するの？不明確です。
- ・「～を検討できる」だと思いますが、何を検討するのでしょうか？
- ・「異なる科学分野」が不明。Ⅶ-1. に同じ。

Ⅶ-5. 学際的な研究チームを構成し、主導していける(n=100)

[同意しない理由]

- ・学際的な研究チームの一員として協働していける。
- ・そういう場合もあるだろう。
- ・後期課程に限定しないと考えるため。
- ・「主導していける」は修了後の課題としても良いのでは。やや過大な能力では。
- ・ただし基礎的能力。
- ・主導する必要があるのか。
- ・Ⅵ. へ。
- ・他学問からもおおいに学ぶべき。
- ・Ⅱ-2. と同じ？ 主体的に参加はできると思います。
- ・困難である。
- ・主導は、もっと経験を積んだあとのシニア研究者になってからだと思います。
- ・本来そうあるべきはわかるが現実異なる
- ・将来的に目指すことができる能力として表現した方がよい。
- ・主導していくことまで求められるか、むずかしいように思う。
- ・「主導していける」は難しいと考えます。
- ・博士の修了時には無理（主導、チーム構成など）。
- ・博士課程の修了は自律した研究者としてのスタートラインなので学際的な研究チームを構成し主導していける能力の獲得はハードルが高いように考えます。
- ・Ⅱ-2. と重なっている

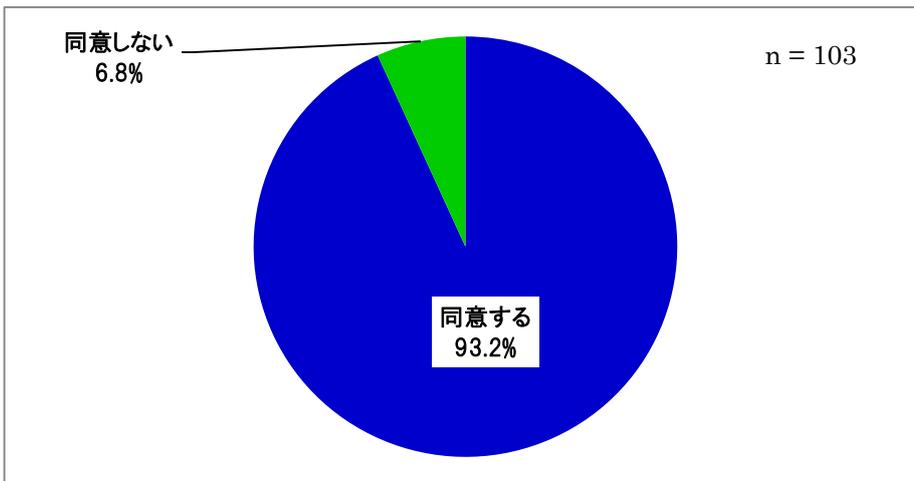
- ・Ⅱ－２．との相違点は何か？ どちらか整理する方がよいと思われる。
- ・いずれ、主導できることが望ましい。
- ・Ⅱ－２．と重複。
- ・チーム構成・主導はむずかしい

Ⅶ-6. 課題解決のために、学際的な支援を求め、主体的に動ける(n=103)

[同意しない理由]

- ・後期課程に限定しないと考えるため。
- ・意味が不明確。
- ・Ⅵ. へ。
- ・他学問からもおおいに学ぶべき。
- ・受動的である。もっと主導的であるべき。「リーダーシップをとり」他者から求めるのか？
- ・意味がわかりにくい。課題解決のために必要な学際的支援を企画することができる。
- ・「支援」ですか？ 「協力」と思う。
- ・「主導」は難しいと思う。もう少し低いレベルがよい。

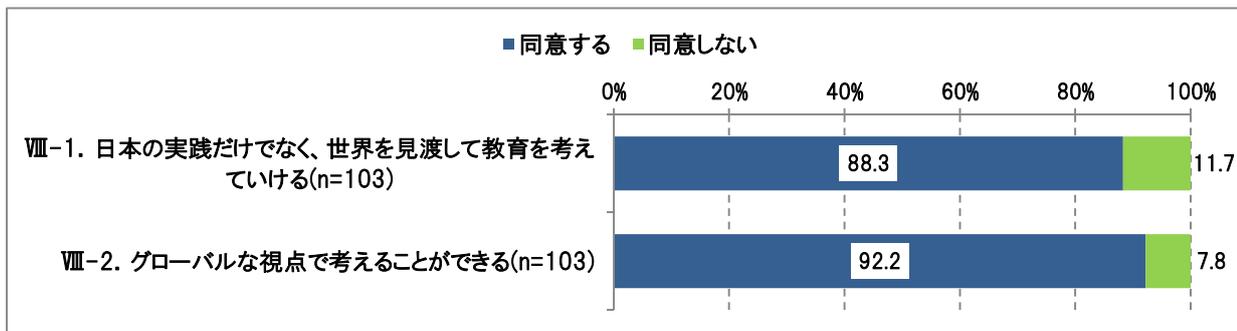
VIII. グローバルに対応する



[同意しない理由]

- ・ 後期課程に限定した内容ではない。
- ・ グローバルに何に対応するとは？
- ・ これは博士に限られる能力ではないので、別項であげるものではないと思います。
- ・ 「グローバル」の意味が受け取る人によって異なる可能性がある。「学際的」又は「国際的」等グローバル意味するところが、もう少し明確な方が、評価しやすい。
- ・ 知識技術だけでなく看護実践を含めてとしたら、専門領域になります。
- ・ 説明出来ていない。
- ・ 何に対応するのか不明確です。
- ・ グローバルの意味がわかりにくい表現。“グローバル”に対応する←何に対応するのかがわかりづらい。
- ・ 下の2項目を考えると、「視野・視点をもつ」ことを示した方がよいのではないか。「グローバルな視点で対応する」？
- ・ この場合の対応するが何を意味するのかがわかりにくい。
- ・ 後期課程において「グローバルな対応」までは求められない。将来像としては必要。

<修得すべき能力の内容>



VIII-1.
日本

の実践だけでなく、世界を見渡して教育を考えていける(n=103)

[同意しない理由]

- ・ 教育を目的とするのはおかしい。
- ・ 後期課程に限定した内容ではない。
- ・ 「看護」を考える。
- ・ 教育のみで良いのでしょうか。日本VS世界の世界観に異和感があります。
- ・ →「世界の実践・教育・研究を視野に入れた活動ができる」
- ・ 前文では実践を後文では教育を述べており、文章としてつながらない。「日本だけでなく、世界の看護を見渡して教育を考えていける」という意味でしょうか。
- ・ 教育Vの項に入ってもよいと思う。
- ・ 表現の検討。
- ・ 何の実践？
- ・ VIII-1. はVに、VIII-2. は全般に加えていいのではないのでしょうか。
- ・ VIII-1.、VIII-2. の違いがわかりにくい。

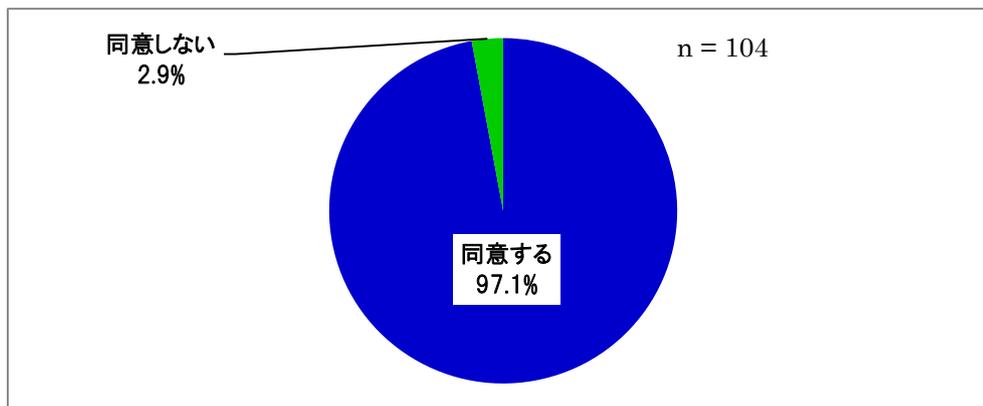
- ・世界の実践を俯瞰して。
- ・下のB-VIII-2. の項目の中に含まれると思います。VIII-1. とVIII-2. の違いがわかりにくいです。
- ・日本語の表現がおかしい。AだけでなくB…というのであれば、AとBは水準を揃える必要がある。
- ・かなり厳しいと思う。
- ・原則的に必要だが、求めるレベルが高い。

VIII-2. グローバルな視点で考えることができる(n=103)

[同意しない理由]

- ・後期課程に限定した内容ではない。
- ・→「グローバルな視点で看護を探究できる」
- ・研究・実践…。
- ・VIII-1. はVに、VIII-2. は全般に加えていいのではないのでしょうか。
- ・一般的に言われているが、抽象的すぎる。
- ・もう少し博士後期課程に特化した能力の表現にならないか。
- ・VIII-1.、VIII-2. の違いがわかりにくい。
- ・追：「何を」明確にしなくてよいか疑問に思いました。「看護全般」でしょうか。
- ・VIII. はグローバルに対応するといっているのだから“考える”ではなく、行動のレベルが表現できないか。
- ・原則的に必要だが、求めるレベルが高い。

【看護の学識者としての責任と役割を果たす】



[同意しない理由]

- ・「看護の」は不要では。学識者としての責任と役割でいいのでは。
- ・きわめて抽象的であり、あたりまえのことを述べているにすぎない。責任と役割を果たせるか否かは個人の諸能力に関わるものであるから、共通性の求められるこうした基準に含める必要はない。いかに果たしていないかという現実の裏返しにしか思われない。
- ・アカウンタビリティ又は説明責任。
- ・「学識を有する者」であれば理解できる。

■その他 本研究に対するご質問・ご意見

- 一人の院修了生がこれら全ての能力をもち合せることが困難かもしれないが、それぞれの個性を生かし、強みを伸ばしていき、これらの能力が伸び看護の学識者として責任と役割を果たすことが必要であることを理解し、修了後に発展していける基礎能力をもって欲しいと思います。
- 同意しない場合にのみ、理由を書かせる。という本アンケートの実施法は、「同意する」方向へと回答を誘導しやすいのでは？
- “修了生は～である”と表現した時に、修了した人がその後学識者として～をして行くこと検討するのか？ そのために課程での学習の中で修得すべき内容を検討するのか？ 混同している部分があると感じました。
- 博士課程で修得する知識や能力と修了後に期待している能力が混在しており、修了後に期待していく能力がやや過大に感じます。全ての修了生には求められないように思います。
- 博士後期課程修了を出発点ととらえています。博士を修了しただけでは高い能力や役割獲得は難しい。
- 博士課程の修了生および学位取得者として、求められる能力、責任、役割として、非常に重要な内容ばかりだと同感いたします。
- VI看護学を発展させる、以外は看護の修士博士号取得者でなくとも良いような general な大学院修了者を指している様に思います。看護しかできない事、看護の博士に求められる事をもう少しケア対象者との関係性を踏まえて述べる部分があっても良い様に思います。大変貴重な調査だと思います。有難うございました。
- I. ～VII. の能力が、修了時なのか、修了後の活躍期間を通してのことなのか、不明瞭だと思います。そこを明確にしないと博士課程の評価がしにくいのではないのでしょうか。
- 学部から直接博士（前期・後期）課程に入った方々と実践をした後での幅の拡さの違いがある。臨床と教育・研究との相補性の中で力をつけて行くと限りなく看護学の理論探究につながると考えている。皆様方のご健闘をお祈りします。
- VIIIグローバルに対応するが必要なことは事実ですが他のところに入れていい項目が思い浮かぶので整理しなおすか充実させるか要検討のように思います。ご研究の成果に期待しております。前期課程が比較的实践の基本におかれていたので研究力が後期に十分盛り込まれることを期待し、また出来あがった折には自己点検に使えるようにしたいです。ありがとうございます。
- 学問、学問領域、専門領域などのことばが、どのような意味で使われているのかがわかりませんでした。具体的な行動レベルと、考え方が混在していて、わかりにくかったです。でも、大変重要な取組みだと思います。あとは、これらを各博士課程がどうカリキュラムに取り入れるか、ですね。昨年の教員の調査を見て、求める能力を、本当に教育しているのか、疑問に思いました。
- すべて同意するにしたいが現実的には異なる点が多い。
- すばらしい教育基準だと思いますが、実際どの程度到達できるのか、指導者の教育も必要と考えます。
- 卒業すぐに期待できることは限られてくると思います。将来的には可能性を広げてほしいと思います。
- 修得すべき能力の全体的なところでは、納得いくものではありませんが、それぞれの内容には、修了時というよりは、その後の研鑽によって、開発される能力も含まれているように思いました。今後の精錬が必要だと思います。(ID79)
- 博士修了時の能力としてもちこみすぎではないか。修了後に発展させる力の育成が大切ではないかと思う。大学院の独自性を考えた時にここまで提示が必要か疑問に思う。(ID82)
- A、保健医療福祉 - 看護が貢献すべき幅広い分野を見直す力ー {政策提言に必要な研究の遂行。研究を活用して政策提言する能力。 B、学問を深く深求する。 どちらか一方でもよいようにも思えますが。
- 1つ1つの能力にレベルがあるとします。たいへん考えづらかったです。
- 質の高い作業をありがとうございます。全体的に文言の精選が必要と思われまます。よろしくお祈り致します。
- 大学院教育基準の策定作業、大変お疲れ様でございます。皆様が検討してご提示下さった能力について、理解して受け入れる方向で確認させていただき、表現で少しわかりにくい部分についてコメントさせていただきました。ただ、各能力項目で似かよったと思われるものがありますので、43項目がもう少し絞られるとよいと思いました。(例えば、B-IV-3. とB-VII. の各項目、B-VI-7. とB-VIII. など)。また、「他領域」「他分野」「他の学問領域」「他の科学分野」「専門の学問分野」「専門集団」「専門職集団」等の類似の用語についての違いを明示していただければと思います。
- 重要な取組みに感謝いたします。多くのご意見が寄せられることと存じますが、基本的には修士課程の上に積み上がっていることがわかるようなものになると嬉しいです。
- 修了時点での達成として考えると、末尾部分をもう少しレベルを下げていただけると有難いと思います。
- 質問項目の中には博士後期課程で修得をできる（可能）事柄と、後期課程で考えることはできるが、修了時に獲得が困難なことが混在しているように見えます。学修のなかで志向するが、修了時に獲得が困難と思われる事項は△に致しました。
- 「博士後期課程修了生が修得すべき能力」は、修了時点で修得すべき能力であるのか、修了後研鑽する中で獲得する能力であるのか、どちらでしょうか？ 提示されているすべての能力を博士後期課程修了時に修得していることとすると、II-2、III-4、III-6、IV-3、VII-5は、難しいのではないかと考えます。(修了後、研究者・教育者として研鑽していく中で獲得していく能力ではないかと考えます)。